



会報

No.27

-52.7.1-

みやま文庫

「みやま文庫」の十六年

大 図 軍 之 丞

「みやま文庫」もこのほどの「上州のおんな・その歴史と民俗」で既に六十三巻を数え、第一巻の「ふるさとの山・赤城山」が出されてから十六年を経過している。

今でこそ会員は三千四百名になっているが、私がかかりあいを持った発足当時はまことに淋しいものであった。昭和二十五年の春から若干の熱心な方々が、兵庫県の「のちぎく文庫」の例もあるのでぜひ群馬の文化向上に資し、一面では商業ベースに乗らない埋もれた原稿などを世に送る途を講じたいということで苦心を重ね、県当局や教育委員会などの協力で漸く会の設立に至ったのは翌年三月であった。

当時発起人とされたのは、県下各界各層の人々を始め東京の方を含めて百四十九名であった。その中で、どうしたことか私も文化人四十五名の内に加えられていた。文化人などとお恥かしいことであるが、こうしたことに関心と興味を持つ私は専ら会員獲得に携わったことであつた。

その頃、「会員はまだ二百名ほどであるが、何部位印刷したものであろうか」という幹部の嘆きに私は「ともかく千部は印刷することではなくては」と強調したことを記憶している。流石に第一巻発行までには千六百三十人に上つたというが、関係者の苦心は容易なことではなかつたらしい。

他面編纂や財政方面もまことに敵しいものであつたようだ。なんといつても当初の五年は会費年額僅かに千円、それで毎年四冊(初年度は五冊)を発行したのであるから県や特別援助者がなければソロバンがとれる筈がない。現在でも僅かに年額二千六百円という「異状低額」で、若干の県費助成を頼りに、次々に立派なものを出している。

既刊六十三巻は、広く各部門に亘り、何れも読みものとしても興味多く、研究資料としても貴重なものである。これを事書するかのようになり、ときたま開かれる古書展などでみると、既に数千円の値札のものさえある。そんなのをみると、思わず自分の愛蔵する「みやま文庫」の「経済価値」を計算する気になるからおかしなものである。

(監事)

みやま文庫懸賞原稿募集

◎ 応募規定

(一) 応募原稿

(1) 郷土群馬に関する未発表の著作(みやま文庫に向くもの)

(2) 内容は高等学校卒業程度の学力で理解できるもの。当用漢字新かなづかいを原則とする。

(3) 執筆は個人でもグループでもよい。

(四) 応募資格 みやま文庫会員(応募の際入会も可)

(五) 宛 先

〒371 前橋市城東町2の3 群馬県立図書館内

みやま文庫事務局

電話 前橋 31-3008

(四) 入 選 毎年3月6日切6月未発表

(五) 入 賞 みやま文庫賞 一編 賞金八万円
(みやま文庫として刊行する)

佳作 若干名 呈簿謝

(六) 枚 数 400字詰原稿用紙350枚以内

(七) 選 考 みやま文庫賞選考委員会

(八) そ の 他

入賞作品を刊行する場合は編集委員会にて加除訂正を定めることもある。

〒371 前橋市城東町二丁目三之三
群馬県立図書館内

みやま文庫事務局

電話 前橋 三二〇八番
振替東京 四一四三五九番

◆ 五十一年度配本の変更

五十一年度の配本について、当初予定した「群馬の民話」の刊行がおくれますので、次のとおり変更になりました。ご了承下さい。

六四巻 みやま随筆

六五巻 山口兼水——その人と作品

明治期における郷土の作家兼水の評伝と全作品を収録した、茨川市真下四郎氏の労作五十一年度文庫賞入賞作。

◆ 五十二年配本計画

五十二年度の配本については次の四冊を予定し、準備を進めております。

○ 群馬の植物

豊かな自然に恵まれた群馬—ふるさとの森や草原のなりたちとそこに息づく草木について記述、須藤忠成氏多年の研究になるもの。

◆ 六十巻を超える

みやま文庫も六〇巻を超え、各方面よりのご支援により幸いに好評をいただいておりますことを何よりと感謝いたしております。

また新聞、テレビ等でも折にふれご紹介をいただいておりますが、次に紙上の記事より一部を抄出し掲げさせていただきます。

上州の事典（読売新聞）

県内の貴重な研究、資料をまとめ、出版することにより独自の“地方文化”を真摯な視点で定着させたみやま文庫の功績は大きい。会員制度、共同執筆を特徴とする「みやま文庫」がこの十数年間に出版した本の数々が、今や“上州の事典”として貴重な財産となっている。

土着の文化掘り下げて（朝日新聞）

地道な出版活動を続けている「みやま文庫」。中央の押しつけ文化に抵抗し、土着の文化を掘り下げることで自分たちの生き方をみつめなぞそうという目的ではじめたものだ。

本の中身がすべて群馬に関係あるもので占められるのは当然だが、たとえば「詩人萩原朔太郎」にしても、群馬で

。図書館の窓から 上毛物知り事典？

県内各図書館で扱われたレファレンス事例のうち郷土に関する事項約二〇〇項を収録したものの。群馬県図書館協会編。

○ 群馬の民話

県内各地に語りつがれて来た民話の集成。井田安雄氏が執筆。

○ 上州の詩人 暮鳥・拓次・恭次郎

朝太郎以後の郷土における代表的な近代詩人の評伝と作品の鑑賞。和田義昭氏執筆（予定）

なお以降の企画に次のようなものが挙げられています。

群馬の板碑・群馬の演劇

統上州のおんな

群馬県の仏教、鬼城、零奈子

群馬の近代美術

群馬の古墳

なければ書けないようなものにしぼってまとめ、「群馬俳句歳時記」も尾瀬の木道を夏の季語として取入れたり、一般的な季語の上州方言による呼方を付け加えたりする工夫をこらしている。

伸ばそう県民文庫（毎日新聞）

この文庫もレールに乗った。今後は刊行販売の面でも、執筆陣の面でも幅をひろげ、文字どおり一般庶民の“文庫”として伸びてゆく体制を考え、強化していったほしいものだ。そのため、会員をもっと大衆化すること、文庫の存在をPRすること、また県も財政的援助を惜しまないことを要望したい。

◆ 「上州の街道」頒布

さきに再版いたしましたシリーズ「上州の街道」（既刊「例幣使街道」「中山道」「三国街道」「上州の諸街道」の四巻を収める）の在庫が若干ありますので頒布いたしますから、ご希望の方は代金（二六〇〇円、郵送の場合は二四〇円増）を添えて申し込下さい。

◆ 会員アンケートから

さきに行ないましたアンケートについては、多数の方からご回答を寄せていただきありがとうございました。

中でも今後の刊行への希望テーマについては一〇〇頂にわたる多様さで、あらためて会員層のひろさを感しました。これらを貴重な参考として今後努力したいと思いますのでご協力をお願いいたします。

寄せられたご意見等から

- 県民文庫としてテーマおよび内容をもっとひろく扱ってほしい。
- やき直し物より書きおろし物を期待する。
- 写真や絵が少なく読むのに疲れる。もっと豊富に扱って来によめる本をお願いする。
- 女性の書いたものが少ないのが残念です。企画の中で考えて下さい。
- 文庫の性質もあるでしょうが固くなるしものが多く面白味にかける。気軽によめる本も加えていただきたい。
- 今後もしリージ式に複刊をつづけて欲しい。
- 原稿を会員に限定しないでひろく公募し、研究活動の助長をはかるように。
- 県内に貴重な資料で死蔵化されているものがあるのでは

- ないか。そういうものをとり上げるようにしたらよい。
- もっと広い層（県外人も含めて）に執筆を依頼してほしいか。
- 若手の人にもできるだけ書いてもらうようにしたら。
- 「かくれた作品」や「埋れた労作」を発掘し紹介するよ
- うに。
- バックナンバーが欲しいが古本屋では高値がついてい
- る。計画的に再版を考えてほしい。
- 既刊書を手ししやすいシステムをつくってもらえない
- か。
- 何年計画かで既刊書の複刊が考えられないか。
- 会費をアップしても充実した本の出版を望む。
- もっと県費補助金を増額して充実した文庫が継続出版さ
- れることを念願する。
- 会報に会員の著作の紹介や活動状況をのせ消息を知らせ
- るように。
- 定期に刊行配本ができるように努力されたい。
- 古文書のよみ方などの講習会を開いてもらえたら。
- みやま文庫を収納する特製の文庫（書架）を作り希望者
- に頒布したらどうか。
- 会員をもっとふすように啓蒙活動や宣伝をしたらよい。

本会に対するご意見、ご要望等について随時お寄せ下さい。

◆ 五十二年度会費の納入

五十二年度の会費は左のとおり（前年に同じ）です。

申しあげるまでもないことですが、本会の運営は会費によって賄われており、そのため前納の建前となっておりますので、早期納入にご協力下さるようお願いいたします。

普通会費 二、六〇〇円

郵送会員会費 三、一〇〇円

◆ 会員の入、退会

退会の場合は早目にご連絡下さい。連絡のない場合は、継続されるものとして引きつづき配本いたします。

入会希望の方は会費を添えて事務員へお申込下さい。余裕のないときは次年度からになります。

◆ 住所等の変更

住所、勤務場所、姓氏等変更のあった場合は必ずご連絡下さい。配本その他の連絡に支障のないようにしたいと思います。

数 員 庫 文 庫 会 員 数

地 区	数	地 区	数	地 区	数	地 区	数
県議	66	林	79	甘	59	郡	59
会	169	川	89	碓	66	郡	66
関	35	田	80	吾	135	郡	135
係	107	岡	67	利	132	郡	132
係	81	岡	59	佐	101	郡	101
係	788	中	63	新	62	郡	62
関	242	多	147	山	19	郡	19
市	134	馬	109	邑	35	郡	35
市	116	北	52	県	139	外	139
市	151	野	58	合	3,450	計	3,450

52年度の予算

当該予算について次に掲げました。ご了承のうえ、ご協力下さるようお願いいたします。

昭和52年度予算

収入

科目	目	予算額	摘要	要
会費	費	9,230	会費 3,550人分	
補助金	金	700	県費補助金	
寄付金	金	10		
雑収入	入	525	送料、既刊図書分売代、利子	
繰越金	金	520	前年度繰越金	
計		10,985		

支出

科目	目	予算額	摘要	要
人件費	費	1,950	職員給与費、旅費	
会議費	費	60	理事会、企画会議、幹事会費	
原稿料	料	420	原稿料 4巻分	
編集費	費	160	資料調査費、編集諸費	
印刷費	費	7,320	文庫4巻印刷費	
発送費	費	560	郵送料、配本旅費	
事務費	費	160	事務費、備品費	
諸費	費	155	会費振替払込料負担、普及諸費	
予備費	費	200		
計		10,985		

収支差引残 0円

51年度の決算

当該決算の概要は次のとおりです。ご覧のうえ、ご了承下さるようご報告いたします。

昭和51年度決算

収入

科目	目	決算額	摘要	要
会費	費	8,611,360	会費 3,291人分	
補助金	金	700,000	県費補助金	
寄付金	金	0		
雑収入	入	497,742	送料、既刊図書分売代、利子	
繰越金	金	138,532	前年度繰越金	
計		9,947,634		

支出

科目	目	決算額	摘要	要
人件費	費	1,462,200	職員給与費、旅費	
会議費	費	24,050	理事会、企画会議、幹事会費	
原稿料	料	395,000	原稿料 4巻分	
編集費	費	116,123	資料調査費、編集諸費	
印刷費	費	6,601,350	文庫4巻印刷費	
発送費	費	533,700	郵送料、配本旅費	
事務費	費	155,904	事務費、備品費	
諸費	費	139,300	会費振替払込料負担、普及諸費	
予備費	費	0		
計		9,427,627		

残高 520,007円 翌年度へ繰越